



子どもが変われば、保護者も変わる

🌸 他人と過去は変えられないが…

保護者対応での失敗については、あまり触れたくありません。遠い過去の出来事であっても、保護者から受けた怒りの感情を思い出すのはつらい、というのが正直なところです。それでも何か事例を挙げるとすれば、十数年前の失敗経験が思い浮かびます。

子ども同士のトラブルのことで保護者を呼んで面談したところ、思いもよらなかった激しい怒りをぶつけられてしまいました。公平な立場でトラブルの内容を説明していたつもりでしたが、「わが子だけが悪者にされている」と受け取られてしまったのです。そうになると、何を言っても聞く耳をもってもらえません。激しい罵声が続いた後、「担任の指導が悪い」という言葉を残して帰って行かれました。冷静に振り返れば、私の不用意な一言が怒りの感情を引き出してしまったのは確かです。でもそのときは冷静になどなれず、ただおろおろするばかりでした。

それから数年が過ぎ、再び保護者対応で苦慮しているとき、気分転換のために読んでいた小説の中に、精神科医エリック・バーンの「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉が…。目から鱗が落ちるとはこのことです。

「変えられそうもない保護者のことはひとまず脇に置き、まずは変えられそうなところから取り組もう」

「過去の出来事に縛られていては先には進めない。あれこれ思
い悩まずに、何はともあれ、できそうなことをやってみよう」
と、気持ちを切り替えることができたのです。

🌸 子どもが変われば、保護者も変わる

保護者との関係がどうにもならないときでも、担任として当
り前にできること。それは、子どもたちへのアプローチです。「子
ども同士のトラブルだからこそ、子どもたちへの対応を第一に考
えよう。そうすればいつか、保護者の反応も変わるのではないか」
という考えは間違っていないでした。

ある年のこと、いじめも含めた複雑なトラブルが起きました。
起きていることがあまりにも複雑なため、「ダメなものダメ」と
いう厳しい対応を進めても、解決できそうにありません。そこで
「まず自分の対応を変えよう」と考え、子どもたちの力で解決する
ことができるような手立てを試みました。トラブルの渦中にある
子どもたちを集めて、解決志向の話し合いの場をつくったので
す。

すんなりと進んだわけではありません。保護者からも、早期解
決を求める厳しい声が届きます。それでも子どもたちの話をてい
ねいに聞き取り図解化し、「解決策＝今すぐにできそうなこと」を
見つけることで、トラブル解決への道筋がついたのです。結果、
保護者の反応も少しずつ攻撃的なものではなくなっていきました。
「子どもが変われば、保護者も変わる」と実感した経験でし
た。そしてこの言葉が、私が保護者とかかわるとき「お守り言
葉」となりました。変えられそうなところから変える努力は、未
来を変える力になるのではないのでしょうか。 (浦野裕司)